

場所/臨床研究棟6階 大講義室

日時/平成28年8月23日(火) 16:30~18:00

先端医学トピックスの講義としても開講します

Achieving Productive Aging in Japan: The systemic regulatory mechanism of mammalian aging and longevity and anti-aging intervention

今井 眞一郎 教授

ワシントン大学医学部(セントルイス)
発生生物学部門・医学部門



今井眞一郎先生は、哺乳類サーチュインとNAD合成系の研究をはじめ老化・寿命の第一線の研究を行い、世界をリードされております。ご存知のように、我が国は4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えており、本年6月には文部科学省を中心に関係省庁が参加する推進会議が政府内に設置され、まさに老化研究推進の機運が高まっております。このような状況の中、既に新聞をはじめメディアで紹介されておりますように、本年7月11日にワシントン大学医学部と慶応義塾大学医学部の国際共同研究として、NMN(b-nicotinamide mononucleotide)の第1相臨床研究が開始され、注目を集めております。今回、今井眞一郎先生の一時帰国のご多忙の中お時間をいただき、当研究科において特別講演をしていただくこととなりました。今井眞一郎先生は老化・寿命研究の第一人者であることに加え、我が国の将来のサイエンスを担う若手人材の育成についてもオピニオンリーダーでもあります。(実験医学 Vol.33 No.13(8月号)pp.2107~、2015)皆様、奮ってご参加ください。

コーディネーター：細胞生理学分野 南 康博 教授

主催：シグナル伝達医学展開研究センター

連絡先：研究支援課研究企画係 tel：5195/mail：k9shien@med.kobe-u.ac.jp